

Lovejoy がやってきた 久しぶりに撮影したい彗星

昨年のアイソン彗星のフィーバーから約1年、その後もいくつかの明るい彗星があらわれました。

2013年11月に4等級まで増光したC/2013R1 ラブジョイ彗星、2014年春から秋にいくつかの星雲星団とニアミスしたC/2012K1 リニア彗星、C/2014E2 ジャック彗星など、そこそこ明るくなったのに、アイソン消滅のショックが大きかったせいなのか、なんとなく足が向かずに見逃してきました。

そんなところに、C/2014Q2 ラブジョイであります。近日点距離はあまり近くないので、雄大な尾をたなびかすという訳にはいかないようですが、なんといっても深夜から夕方の方で観察できるということで、少々寒いのは我慢するとして無理のない時間帯に見えるというのはラッキーです。

まずは小手はじめということで、年末に松阪市天文台のFS152直焦点で様子見をしました。

すると、街中の空、短時間露光にもかかわらず、イオンテイルを伸ばした彗星の姿が確認できました。

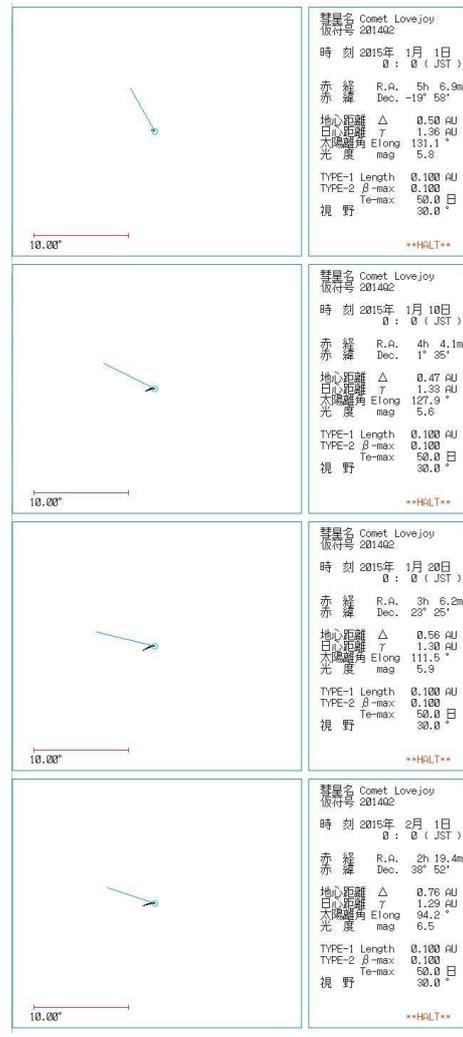


12/27 22:00 FS152 直焦点 NikonD5100 30sec × 8

さて、今後の彗星ですが、1月30日の近日点通過に向けてどんどん北上し、ますます観測条件が良くなっていきます。特に月が無くなる1月9日以降が好期です。

彗星の尾のほうは、現在も見えているイオンテイルのほうは北向きから反時計回りに東向きに変わって行きます。一方で、ダストテイルのほうは、近日点か遠いことと見かけ上の位置関係が良くないので、東南東方向にちょこんと見えるだけになりそうです。

こうやって、予報ができるようになってくると楽しくなってきました。



彗星の尾の変化をシミュレーション(尾の条件は固定)
 (上段から、1/1、1/10、1/20、2/1 の順)

メカが大好き PC9801 エミュレータ

表面で説明に使用した彗星の尾のシミュレーションは、私が 1991 年(なんと 24 年も前!)に作成した PC9801 用のソフトウェア ss.exe を使用しています。

NEC の PC9801 シリーズが製造中止になってからもう何年になるのでしょうか、ハードウェアのほうは殆ど絶滅状態ですが、やはり根強いニーズはあるもので、PC9801 のソフトウェアを実行するためのエミュレーションソフトが作成されています。(作成された方に感謝です。)

私の場合は、T98-NextというPC9821 エミュレーションソフトを重宝していて、ゲームソフトのような特殊なものでない限りは特に問題なく使用できます。

本来ならば、ウインドウズ用に C++などを使って元のプログラムを移植すればよいのですが、使用できる環境が維

持されていることもあり、また、それほど頻繁に使用するものでもないで、腰も上がらずに今に至っています。

さて、ウインドウズ版が動くのはいつのことやら・・



Books & CDs 天文年鑑/天文年鑑編集委員会

今年も 11 月末に天文年鑑が発売されました。私の場合、発売日とともにアマゾンで購入し、来年は何があるのかなあ・・とページをめくるのがとてもウキウキする年末の恒例の行事になっています。

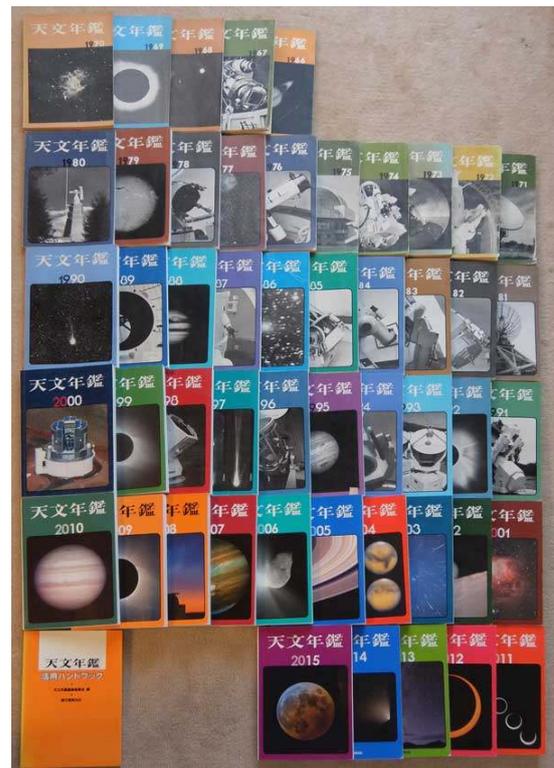
さて、この天文年鑑は、今回発行された 2015 年版で、刊行されてから 67 年になるのだそうですが、私にとっては、50 冊目の記念すべきイシューになりました。

といっても、リアルタイムで購入したのは 1974 年版からで、それ以前の 1973 年から 1966 年までの刊は古本屋(ネットを含む)で捜して手に入れたものです。

今となっては、古本屋さんを物色しても、65 年以前の刊を捜すのは難しく、いまのところ発見できていません。

1 年 1 年、本棚を占有する幅が増えていくのですが、まあ、年に 1 冊のペースですから、それほど圧迫は進んでい

ません。その一方で、月に 1 冊づつ増え続けている天文ガイドのほうは 45 年分が押入れを占有して阿鼻叫喚の大変なことになっています。



編集雑記

先日天体観測仲間 K 氏から大石観測所(御殿)に設置している赤道儀(アスコ SE)のコントローラーを預かりました。というのも、赤道儀に天体撮影に使用するオートガイド装置(NEXGUIDE)を接続する端子を取り付ける注文を受けたためなのですが、あまり長くほったらかしにしておくとの冬の撮影に差支えが出るので、年末に紅白を見ながら分解して取付作業を行いました。非常に古い機械なので、内部の回路は完全ディスクリットで、懐かしい部品が並んでいて、回路もとても勉強になりました。